

乳児院における家族再統合に向けての支援に関する一考察 ーアタッチメント形成の問題に視点をあててー

社会システム研究科 地域コミュニティ専攻
2020M30001 井田 智美

要旨

2019年度全国乳児院入所状況実態調査(全国乳児福祉協議会実施)によると、乳児院新規入所理由の39.9%が「虐待」である。さらに「家族の精神疾患」18.2%、「経済的困難」6.3%と続いているが、様々な要因が複雑に重複している事例が少なくない。

入所児の心身の状況をみると、「病児・虚弱児」が45.1%、「障害児」が2.3%となっており、心身に特に問題のない子どもは全体の半数程度である。障害児の割合は数字としては少ないが、これは入所児の多くが0～2歳であり、障害の診断が行われる一般的な年齢より低いために、入所時には医学的な診断がなされていないためであろう。

乳児院で生活する子どもには、特定の担当養育者が決められており、勤務交替のある乳児院では、子どもと担当養育者が安定したアタッチメント関係を築いていけるようにスタッフ全体で相互に支えあっていく。入所段階から様々な困難を抱えた子どもとの間で安定したアタッチメント関係を形成していくことは容易な課題ではないが、スタッフは自らの専門性や経験を活かし、職員間や他の関係機関との間での協力体制のもと、修復的な養育環境となるように努力している。

ところで、乳児院を退所する子どもの約4割は元の家庭に戻っていく。それゆえに、乳児院で築いた子どもとのアタッチメント関係を原家族の養育者にうまく引き継いでいくことが大きな実践課題となっている。しかし、その引き継ぎがうまくできず、時には子どもが再び虐待を受けてしまうケースが少なくないのも現実である。このような結果になれば、子どもの心身の発達に及ぼすダメージは計り知れないものであろう。

それだけに、家庭復帰、さらに言えば「家族再統合」に向けての取り組みには丁寧な見たと配慮が求められているといえよう。

本研究の目的は以下の通りである。

1. どのような条件が確保されれば家族再統合が可能と判断するのか、そのアセスメントの課題と方法について検討していくこと。

「家族再統合」の判断には様々な要因が関係してくるが、本研究では、家族再統合の可能性を、子どもと養育者との間のアタッチメント関係の形成に視点をあてて検討していきたい。なぜなら、養育者との安定したアタッチメント関係を築けるかどうか、子どもが健康的な成長・発達を保障していくための最も基盤となるものであるからである。

筆者は養育者とのアタッチメント関係の形成の問題に着目すると、大きくは次の視点が「家族再統合」の判断の基準となると考えている。

- ① 養育者が感性を發揮し、子どもとの良好なアタッチメントの関係が築けるようにな

っていること。

- ② 子どもと養育者との良好なアタッチメントの関係を維持していけるだけの生活環境や育児サポート体制が築けていること。

2. 乳児院在所中に、家族再統合に必要な、親子のアタッチメント関係の形成に向けての支援の課題を検討すること。

3. 乳児院退所後も、親子のアタッチメント関係の維持や発展に向けての支援をどのような関係諸機関との連携の中で進めていく必要があるのかを検討すること。

第1章では、親子のアタッチメント関係の形成を困難にする諸要因について、養育者の感性(sensitivity)の問題に着目し、1. 子ども側の要因、2. 養育者側の要因、3. 環境要因、の3つの観点から整理した。

第2章では、乳児院における家族再統合に向けての支援の課題について、心理・精神療法や家族再統合プログラムなどの、先行研究、先行実践から考察した。

第3章では実際の乳児院の複数の事例について、先に挙げた諸要因から分析した上で、家族再統合の可能性についてのアセスメントの課題を検討した。

第4章では第3章に挙げた事例の中から抽出した事例についてさらに詳細に記述し、家族再統合の取り組みの課題と留意点について考察した。

終章では第4章までの考察を踏まえて、乳児院での家族再統合に向けてのアセスメントと支援の課題について整理した。

本研究では、家族再統合のために必要なアセスメントの基準を以下の2点にまとめた。

1点目は、子どもが乳児院での安定したアタッチメント関係の中で、安心感を得て、感情制御の力を獲得できているかどうかを子どもの状態から判断することである。

2点目は、原家族の養育者が、子どもに対する感性を取り戻しているかどうかを、養育者とスタッフとの関係、子どもとの関係、生活状況や家庭状況から、また内省的自己形成とヘルプを出せる力の獲得にも焦点をあてながら判断することである。

また、家族再統合のために乳児院に求められる支援を以下の4点にまとめた。

- ① 子どもと養育者のアタッチメント関係形成に向けての支援
- ② 養育者のアタッチメントのニーズに敏感に応答し、ホールディング環境を提供すること
- ③ 養育者の内省的自己の獲得、過去の自我状態の洞察に向けての支援
- ④ ケースワーク的な機能(つなぐ)と退所後の継続的な支援

最後に、今後の課題として、・乳児院退所後の親子状況の継続的な調査の必要性、・養育者のアタッチメント・スタイルの評定方法の検討、・全国の乳児院の家族再統合に向けての取り組みの調査の実施、の3点を挙げた。